多様な土木技術 一覧形式で把握

SLIM JAPANがリンク集

すでに登録100件以上

復興に役立つ技術リンク集の立ち上げについて語る有岡理事長（右）と田中理事

東日本大震災

ゼネコンOBのシニアエンジニアや大学教授、法律、金融などの専門家らで組織するNPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会（有岡正樹理事長、SLIM JAPAN）が、東日本大震災の復旧・復興活動に役立ててもらおうと、多様な土木技術などを一覧形式で把握できるリンク集を立ち上げた。今回の被災範囲は、これまでに経験した幾多の災害よりも桁違いに広く、被害状況もさまざま。同研究会では「いまどのような技術があり、それが何に使えるかを被災地の方々に分かりやすく伝えたい」と技術集作成の趣旨を語る。15日からホームページ（http://slim-japan.org/）にアップする。

3月28日に開かれたコミュニケーション委員会（委員長・田中雄作理事）の会議は必然的に、「われわれに何ができるか」がテーマになった。技術的な知識が少ない一般の人や地方自治体の職員は、インターネットで技術情報を集めようとするはずだ。この意見を機に、「ゆっくりしてはいられない。まずは窓口をつくろう」（田中理事）と思い立ち、約70人の会員に情報提供を依頼。集まった情報は2週間で100件を超えた。

発信先は必ずしもプロではないため、道路や港湾など構造物ごとではなく、機能別に分類し分かりやすくした。具体的には、『掘る、運ぶ、積む』『集める、捨てる、探す』『造る、防ぐ、直す』『計る、創る』『調べる、知らせる』『暮らす』といったカテゴリーが並ぶ。

注目すべきは土木分野にとどまらず身近な生活レベルまで、網羅的に情報を集めようとしている点だ。BCM（事業継続マネジメント）などのソフト的な情報はもとより、「中には安眠まくらの情報も載っている。国や県の手が回らないような些細なことでも、必要としている人はいるはず」（同）との思いを込めた。

また、「今後は風土、景観を元に戻すための手法も必要になってくるかもしれない」（有岡理事長）というように、引き続き多種多様な掲載情報を増やしていきたい考え。技術リンク集を仲立ちに、「現地からは『こんな技術がほしい』、企業など提供側からは『こんな技術がある』という情報をどんどん寄せてもらいたい」（田中理事）と呼び掛けている。